

第10章 評価書の作成にあたって準備書の記載内容を 修正した事項及びその理由

環境影響評価準備書の記載事項から評価書において修正した事項について、修正箇所、内容、理由等を以下に示す。

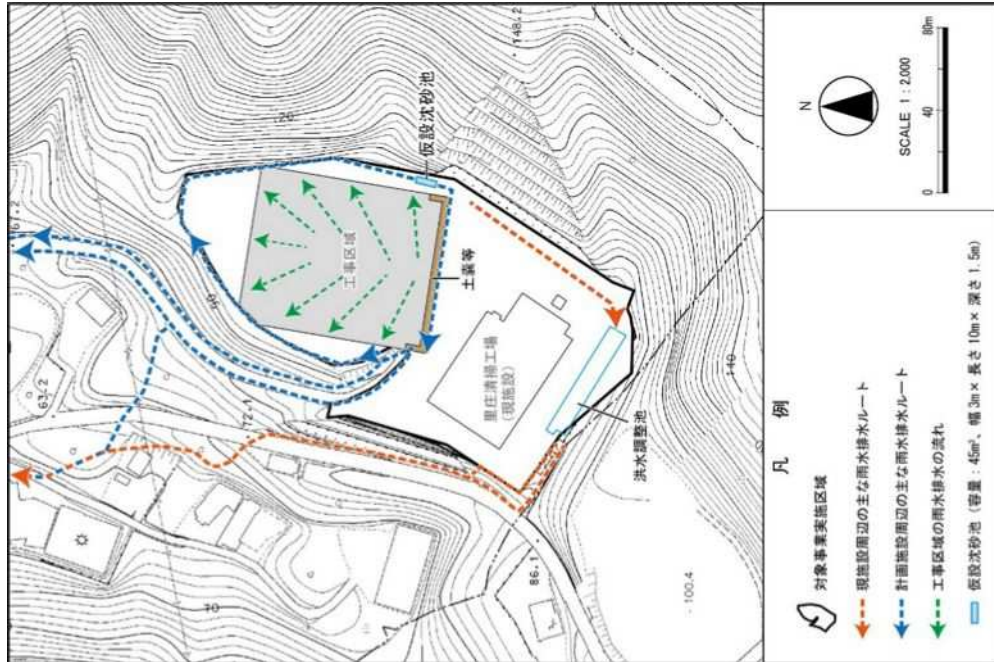
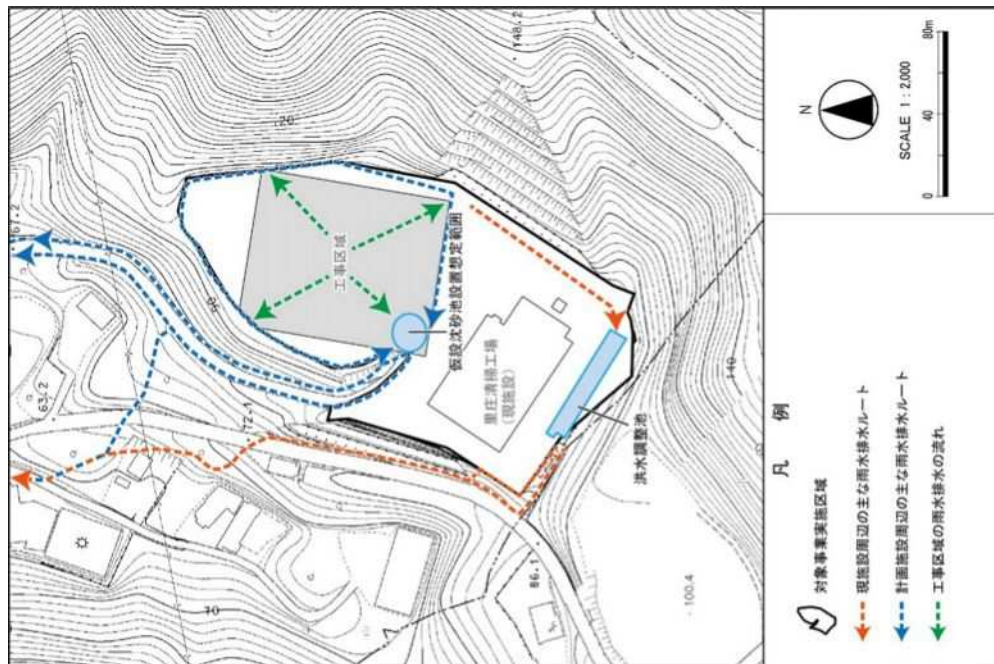
なお、誤字等の軽微な修正や、図表番号の変更等については割愛した。

「第2章 対象事業の目的及び内容」

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
2-1	2-2 対象事業の目的	また、最終処分場については井原市内に令和4年度供用に向け建設中である。	また、最終処分場については井原市内に令和4年3月に竣工し、令和4年4月から供用を開始している。	井笠広域一般廃棄物埋立処分場が令和4年4月に供用開始となったことから、これを反映した。
2-2	2-3-1 対象事業実施区域の位置	令和4年度に岡山県西部環境整備施設組合によって解体予定となっている。	令和4年6月に岡山県西部環境整備施設組合によって解体・撤去工事が完了している。	対象事業実施区域内のストックヤードについては、令和4年6月に解体・撤去工事が行われたことから、これを反映した。
2-14	ク. 排水処理設備	記載なし	「ク. 排水処理設備」に、本事業の排水処理設備の内容を記載した。また、主な設備を表2-3.10に整理した。	本事業の排水処理設備の内容を記載し、排水経路を明確にした。
2-24	図2-3.8	記載なし	生活系排水への供給として「上水」を、プラント系排水への供給として「上水または地下水」を記載した。雨水排水の経路として、「洪水調整池」または「仮設沈砂池」を経由するよう記載した。	供給部分を記載し、排水経路を明確にした。
2-29	5. 排水計画	工事中における雨水排水については、工事区域から発生する濁水は、工事区域下流側に仮設沈砂池を設置して、濁水処理したのちに既設の雨水排水路（道路側溝）に排水する計画である。	工事中における雨水排水は、仮設沈砂池（容量：45m ³ 、幅3m×長さ10m×深さ1.5m）において、濁水処理したのちに既設の雨水排水路（道路側溝）に排水する計画である。なお、工事区域南側は、濁水が雨水排水経路に直接流出しないように、土嚢等を設置するなどの対応を行う。	施工計画が進捗したことにより、仮設沈砂池の設置位置・規模・構造等が具体化したためその内容を明記した。
2-31	図2-3.12	10-2 ページ図参照	10-2 ページ図参照	施工計画が進捗したことにより、仮設沈砂池の設置位置・規模・構造等が具体化したため、図2-3.12中の仮設沈砂池の設置位置を変更した。また、これに伴って、工事区域及び周辺の雨水排水の流れも変更が生じたため、反映した。

準備書記載事項

評価書記載事項



「第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況」

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
3-154	表 3-2. 63	六価クロムの基準値： <u>0.05mg/L</u> 以下	六価クロムの基準値： <u>0.02mg/L</u> 以下	公共用水域の水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準が見直されたため、最新の基準に更新した。
3-155	表 3-2. 64 (1)	大腸菌群数の基準値 AA： <u>50MPN/100ml</u> 以下 A： <u>1,000MPN/100ml</u> 以下 B： <u>5,000MPN/100ml</u> 以下	大腸菌数の基準値 AA： <u>20CFU/100ml</u> 以下 A： <u>300CFU/100ml</u> 以下 B： <u>1,000CFU/100ml</u> 以下	水質汚濁に係る生活環境の保全に関する環境基準が見直されたため、最新の基準に更新した。
3-157	表 3-2. 65	六価クロムの基準値： <u>0.05mg/L</u> 以下	六価クロムの基準値： <u>0.02mg/L</u> 以下	地下水の水質汚濁に係る環境基準が見直されたため、最新の基準に更新した。

「第4章 対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法」

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
4-68	表 4-2. 16 (1)	調査期間等 <u>環境基準項目</u> :1回/季×4季とする。 ダイオキシン類:1回/季×2季(夏季・冬季)とする。	調査期間等 <u>生活環境項目</u> :1回/季×4季とする。 <u>健康項目及びダイオキシン類</u> :1回/季×2季(夏季・冬季)とする。	各調査項目の調査期間を正しいものに修正した。

「第5章 環境影響評価の結果」

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
5-1-129 ~130	b. 気象条件	記載なし	短期高濃度の予測対象とした5つの気象ケース(大気安定度不安定時・上層逆転層発生時・接地逆転層崩壊時・ダウンウォッシュ時・ダウンドラフト時)において、現地調査結果に基づき、各気象条件の発生頻度を追記した。	準備書に対する知事意見(2各論評価(1)環境の自然的構成要素の良好な状態の保持 ア 大気環境)に対応して、各気象条件の出現頻度を記載した。
5-1-142	イ. 環境保全に関する施策との整合性に係る評価	記載なし	短期高濃度の予測結果が最も環境保全目標に近接したダウンドラフト時の出現頻度を記載した。	同上
5-1-153	(2) 環境保全措置	車両の維持管理： 車両の維持管理を徹底する。	車両の維持管理： 車両の維持管理を徹底し、 <u>常に良好な状態で使用すること</u> で環境への負荷を低減する。	準備書に対する知事意見(1総論評価(3)住民への適切な周知等について)に対応して、環境保全措置の内容が明確になるよう修正した。

(次頁に続く)

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
5-5-13	(イ) 降雨条件	降雨量については、表 5-5.11 に示すとおり、過去 10 年間の笠岡地域気象観測所の日降水量の割合から 1 mm 以上 50 mm 未満の降雨が約 9 割であり、降雨量が多いほど発生する濁水も多くなることから 50mm/日とした。	笠岡気象観測所における過去 10 年間の日降水量の状況は、表 5-5.11 に示すとおりである。これによると、過去 10 年間で 1mm/日以上 of 降雨日数は 898 日、平均値は 13.2mm/日、上位 5% 値は 46.5mm/日であった。そこで、予測においては、日常的な降雨だけではなく大雨を対象として、上位 5% 値の 46.5mm/日を基に 50.0mm/日を降雨条件とした。	予測に用いた降雨条件の内容が分かりやすくなるように記載を変更した。
5-5-12	表 5-5.11	10-8 ページ表参照	10-8 ページ表参照	同上
5-5-14	ア. 濁水流出量及び濁水濃度 表 5-5.14	記載なし	施工計画が進捗したことにより、仮設沈砂池の設置位置・規模・構造等が具体化したためその内容を記載し、目標濁水濃度を達成するために必要な仮設沈砂池容量を十分満足することを記載した。また、本事業の仮設沈砂池容量で対応可能となる最大の降雨量についても記載し、評価した。 仮設沈砂池の規模及び構造を表 5-5.14、仮設沈砂池の設置位置図を図 5-5.8 に記載した。	準備書に対する知事意見（2 各論評価（1）環境の自然的構成要素の良好な状態の保持 イ 水環境）に対応して、仮設沈砂池の具体的な規模・構造等を踏まえて、予測・評価を行った。
5-5-15	図 5-5.8			
5-7-21	2) 重要な種の確認状況	現況調査で確認された重要な種は表 5-7.27 に示す 13 種であった。	現況調査で確認された重要な種は表 5-7.27 に示す 14 種であった。	準備書段階では、目視による同定及び確認された環境よりオオコオイムシと判断していたが、専門家より、コオイムシの可能性があるとの指摘を受けた。そこで、解剖して吻等の器官を詳細に確認した。その結果を、県内別地域のコオイムシと比較したところ、コオイムシであることを確認した。本種は重要な種に該当することから、現況調査結果を修正した。また、予測・評価を行い、その内容を記載した。
	表 5-7.27	10-8 ページ表参照	10-8 ページ表参照	同上
5-7-27	表 5-7.37	記載なし	コオイムシに係る情報を表 5-7.37 に記載した。	同上

(次頁に続く)

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
5-7-31	表 5-7. 43	10-9 ページ表参照	10-9 ページ表参照	準備書に対する知事意見（2 各論評価（2）生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全）に対応して、工事の実施及び施設の供用に係る影響要因に伴い発生する騒音・振動がミサゴ及びハチクマの繁殖活動へ与える影響を予測・評価し、その結果を記載した。また、土地の改変に伴う濁水が水域で確認される重要な種へ与える影響についても予測・評価し、その結果を記載した。
5-7-32	表 5-7. 44	10-9 ページ表参照	10-9 ページ表参照	同上
5-7-33	表 5-7. 45 (1)	10-10 ページ表参照	10-10 ページ表参照	同上
5-7-34	表 5-7. 45 (2)	10-11 ページ表参照	10-11 ページ表参照	同上
5-7-35	表 5-7. 46 (1)	10-12 ページ表参照	10-12 ページ表参照	同上
5-7-36	表 5-7. 46 (2)	10-13 ページ表参照	10-13 ページ表参照	同上
5-7-39	表 5-7. 53	10-14 ページ表参照	10-14 ページ表参照	水域で確認された動物の重要な種について、土地の改変による濁水の影響を予測し、結果を記載した。
5-7-39	表 5-7. 54	記載なし	コオイムシに係る予測結果を表 5-7. 54 に記載した。	準備書段階では、目視による同定及び確認された環境よりオオコオイムシと判断していたが、専門家より、コオイムシの可能性があるとの指摘を受けた。そこで、解剖して吻等の器官を詳細に確認した。その結果を、県内別地域のコオイムシと比較したところ、コオイムシであることを確認した。本種は重要な種に該当することから、現況調査結果を修正した。また、予測・評価を行い、その内容を記載した。

(次頁に続く)

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
5-7-42	表 5-7.60 表 5-7.61	種類:地域の植生に配慮した植栽種の選定 内容:事業計画に実施することとしている敷地境界の緑化には、地域の植生に配慮した植栽種を選定する。	種類:地域の植生に配慮した植栽種の選定及び適切な維持管理の実施 内容:事業計画に実施することとしている敷地境界の緑化には、地域の植生に配慮した植栽種を選定し、植栽後は適切な維持管理を実施する。 <u>植栽種は、必要に応じて、植生の専門家による指導のもと決定する。</u>	準備書に対する知事意見(2各論評価(2)生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全イ植物)に対応して、予測結果を踏まえて検討した環境保全措置として、植栽の維持管理及び植栽種の選定方針を記載した。
5-7-43	2) 評価結果	調査及び予測の結果、施設が存在及び供用が重要な動物の生息環境へ与える影響はない、または極めて小さいものと予測された。なお、前項に示す環境保全措置を実施することで事業による動物への影響はさらに低減されるものと考えられる。 以上のことから、工事の実施、施設が存在及び供用が動物へ及ぼす影響については、実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。	調査及び予測の結果、施設が存在及び供用が重要な動物の生息環境へ与える影響はない、または極めて小さいものと予測された。なお、前項に示す環境保全措置及び騒音・振動に係る環境保全措置を実施することで事業による動物への影響はさらに低減されるものと考えられる。 以上のことから、工事の実施、施設が存在及び供用が動物へ及ぼす影響については、実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。	準備書に対する知事意見(2各論評価(2)生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全)に対応して、工事の実施及び施設の供用に係る影響要因に伴い発生する騒音・振動がミサゴ及びハチクマの繁殖活動へ与える影響を予測・評価し、その結果を記載した。
5-8-11 5-8-12	表 5-8.13 表 5-8.14	種類:地域の植生に配慮した植栽種の選定 内容:事業計画に実施することとしている敷地境界の緑化には、地域の植生に配慮した植栽種を選定する。	種類:地域の植生に配慮した植栽種の選定及び適切な維持管理の実施 内容:事業計画に実施することとしている敷地境界の緑化には、地域の植生に配慮した植栽種を選定し、植栽後は適切な維持管理を実施する。 <u>植栽種は、必要に応じて、植生の専門家による指導のもと決定する。</u>	準備書に対する知事意見(2各論評価(2)生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全イ植物)に対応して、予測結果を踏まえて検討した環境保全措置として、植栽の維持管理及び植栽種の選定方針を記載した。

(次頁に続く)

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
5-9-17 5-9-18	表 5-9.19 表 5-9.20	同上	同上	同上
5-12-10	4) 予測結果	<p>焼却残渣については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、<u>現在整備中の処分先の最終処分場</u>に搬入し適切に処分を行う。なお、本事業の稼働期間中に埋立完了となった場合には、<u>現在整備中の最終処分場の次に整備する最終処分場</u>（以下、「次期最終処分場」）に埋立を行う計画であり、次期最終処分場の詳細については、今後計画的に検討し事業を進める計画である。</p> <p>なお、<u>現在整備中の最終処分場の状況</u>は表 5-12.15 に示すとおりであり、焼却残渣は適正に処理・処分することができるものと予測する。</p>	<p>焼却残渣については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、<u>令和4年4月より供用を開始した井笠広域一般廃棄物埋立処分場</u>に搬入し適切に処分を行う。なお、本事業の稼働期間中に埋立完了となった場合には、<u>井笠広域一般廃棄物埋立処分場の次に整備する最終処分場</u>（以下、「次期最終処分場」）に埋立を行う計画であり、次期最終処分場の詳細については、今後計画的に検討し事業を進める計画である。</p> <p>なお、<u>井笠広域一般廃棄物埋立処分場の状況</u>は表 5-12.15 に示すとおりであり、焼却残渣は適正に処理・処分することができるものと予測する。</p>	井笠広域一般廃棄物埋立処分場が令和4年4月に供用開始となったことから、これを反映した。
5-13-17	イ. 施設の稼働	計画施設の温室効果ガスの年間排出量は既存施設に比べ <u>65%</u> 程度に減少すると予測される。	計画施設の温室効果ガスの年間排出量は既存施設に比べ <u>62%</u> 程度に減少すると予測される。	見直しを行い、正しい値に修正した。
5-13-17	表 5-13.30	10-15 ページ表参照	10-15 ページ表参照	同上

頁	5-5-12																																																																																																																																																																																																									
位置	表 5-5. 11																																																																																																																																																																																																									
準備書記載事項	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">年</th> <th colspan="7">降水量(mm)</th> <th colspan="6">各階級の日数の割合</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">合計</th> <th colspan="6">各階級の日数</th> <th rowspan="2">≧1mm</th> <th rowspan="2">≧10mm</th> <th rowspan="2">≧30mm</th> <th rowspan="2">≧50mm</th> <th rowspan="2">≧70mm</th> <th rowspan="2">≧100mm</th> </tr> <tr> <th>≧1mm</th> <th>≧10mm</th> <th>≧30mm</th> <th>≧50mm</th> <th>≧70mm</th> <th>≧100mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2011</td> <td>1283</td> <td>82</td> <td>34</td> <td>12</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>100%</td> <td>41%</td> <td>15%</td> <td>6%</td> <td>1%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>967</td> <td>100</td> <td>26</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>100%</td> <td>26%</td> <td>9%</td> <td>3%</td> <td>1%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2013</td> <td>1367.5</td> <td>83</td> <td>38</td> <td>12</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>100%</td> <td>46%</td> <td>14%</td> <td>8%</td> <td>6%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2014</td> <td>994.5</td> <td>96</td> <td>30</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>100%</td> <td>31%</td> <td>7%</td> <td>1%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2015</td> <td>1183</td> <td>105</td> <td>44</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>100%</td> <td>42%</td> <td>7%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2016</td> <td>1432.5</td> <td>94</td> <td>48</td> <td>14</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>100%</td> <td>51%</td> <td>15%</td> <td>4%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>1274.5</td> <td>83</td> <td>34</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>100%</td> <td>41%</td> <td>16%</td> <td>6%</td> <td>5%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>2018</td> <td>1434.5</td> <td>88</td> <td>35</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>100%</td> <td>40%</td> <td>15%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>752</td> <td>82</td> <td>29</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>100%</td> <td>35%</td> <td>4%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>1213</td> <td>85</td> <td>40</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>100%</td> <td>47%</td> <td>14%</td> <td>5%</td> <td>1%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="7">平均</td> <td>100%</td> <td>40%</td> <td>12%</td> <td>4%</td> <td>2%</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table>														年	降水量(mm)							各階級の日数の割合						合計	各階級の日数						≧1mm	≧10mm	≧30mm	≧50mm	≧70mm	≧100mm	≧1mm	≧10mm	≧30mm	≧50mm	≧70mm	≧100mm	2011	1283	82	34	12	5	1	1	100%	41%	15%	6%	1%	1%	2012	967	100	26	9	3	1	0	100%	26%	9%	3%	1%	0%	2013	1367.5	83	38	12	7	5	0	100%	46%	14%	8%	6%	0%	2014	994.5	96	30	7	1	0	0	100%	31%	7%	1%	0%	0%	2015	1183	105	44	7	0	0	0	100%	42%	7%	0%	0%	0%	2016	1432.5	94	48	14	4	0	0	100%	51%	15%	4%	0%	0%	2017	1274.5	83	34	13	5	4	1	100%	41%	16%	6%	5%	1%	2018	1434.5	88	35	13	4	4	3	100%	40%	15%	5%	5%	3%	2019	752	82	29	3	0	0	0	100%	35%	4%	0%	0%	0%	2020	1213	85	40	12	4	1	0	100%	47%	14%	5%	1%	0%			平均							100%	40%	12%	4%	2%	1%
	年	降水量(mm)							各階級の日数の割合																																																																																																																																																																																																	
		合計	各階級の日数						≧1mm	≧10mm	≧30mm	≧50mm	≧70mm	≧100mm																																																																																																																																																																																												
			≧1mm	≧10mm	≧30mm	≧50mm	≧70mm	≧100mm																																																																																																																																																																																																		
	2011	1283	82	34	12	5	1	1	100%	41%	15%	6%	1%	1%																																																																																																																																																																																												
	2012	967	100	26	9	3	1	0	100%	26%	9%	3%	1%	0%																																																																																																																																																																																												
	2013	1367.5	83	38	12	7	5	0	100%	46%	14%	8%	6%	0%																																																																																																																																																																																												
	2014	994.5	96	30	7	1	0	0	100%	31%	7%	1%	0%	0%																																																																																																																																																																																												
	2015	1183	105	44	7	0	0	0	100%	42%	7%	0%	0%	0%																																																																																																																																																																																												
	2016	1432.5	94	48	14	4	0	0	100%	51%	15%	4%	0%	0%																																																																																																																																																																																												
	2017	1274.5	83	34	13	5	4	1	100%	41%	16%	6%	5%	1%																																																																																																																																																																																												
2018	1434.5	88	35	13	4	4	3	100%	40%	15%	5%	5%	3%																																																																																																																																																																																													
2019	752	82	29	3	0	0	0	100%	35%	4%	0%	0%	0%																																																																																																																																																																																													
2020	1213	85	40	12	4	1	0	100%	47%	14%	5%	1%	0%																																																																																																																																																																																													
		平均							100%	40%	12%	4%	2%	1%																																																																																																																																																																																												
評価書記載事項	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地域気象観測所</th> <th rowspan="2">1mm/日以上の 降雨日数 (日)</th> <th colspan="4">日降水量 (mm/日)</th> </tr> <tr> <th>平均値</th> <th>中央値</th> <th>上位 5%値</th> <th>最大値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>笠岡</td> <td>898</td> <td>13.2</td> <td>7.5</td> <td>46.5</td> <td>158.0</td> </tr> </tbody> </table>														地域気象観測所	1mm/日以上の 降雨日数 (日)	日降水量 (mm/日)				平均値	中央値	上位 5%値	最大値	笠岡	898	13.2	7.5	46.5	158.0																																																																																																																																																																												
	地域気象観測所	1mm/日以上の 降雨日数 (日)	日降水量 (mm/日)																																																																																																																																																																																																							
			平均値	中央値	上位 5%値	最大値																																																																																																																																																																																																				
笠岡	898	13.2	7.5	46.5	158.0																																																																																																																																																																																																					

頁	5-7-21																												
位置	表 5-7. 27																												
準備書記載事項	<table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>確認種数</th> <th>種名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>8種</td> <td>ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>1種</td> <td>セトウチサンショウウオ</td> </tr> <tr> <td>昆虫類・クモ類</td> <td>1種</td> <td>モンスズメバチ</td> </tr> <tr> <td>陸産貝類</td> <td>3種</td> <td>ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、<i>Satsuma</i> 属</td> </tr> </tbody> </table>														分類	確認種数	種名	鳥類	8種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ	両生類	1種	セトウチサンショウウオ	昆虫類・クモ類	1種	モンスズメバチ	陸産貝類	3種	ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、 <i>Satsuma</i> 属
	分類	確認種数	種名																										
	鳥類	8種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ																										
	両生類	1種	セトウチサンショウウオ																										
	昆虫類・クモ類	1種	モンスズメバチ																										
陸産貝類	3種	ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、 <i>Satsuma</i> 属																											
評価書記載事項	<table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>確認種数</th> <th>種名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>8種</td> <td>ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>1種</td> <td>セトウチサンショウウオ</td> </tr> <tr> <td>昆虫類・クモ類</td> <td>2種</td> <td>コオイムシ、モンスズメバチ</td> </tr> <tr> <td>陸産貝類</td> <td>3種</td> <td>ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、<i>Satsuma</i> 属</td> </tr> </tbody> </table>														分類	確認種数	種名	鳥類	8種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ	両生類	1種	セトウチサンショウウオ	昆虫類・クモ類	2種	コオイムシ、モンスズメバチ	陸産貝類	3種	ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、 <i>Satsuma</i> 属
	分類	確認種数	種名																										
	鳥類	8種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ																										
	両生類	1種	セトウチサンショウウオ																										
	昆虫類・クモ類	2種	コオイムシ、モンスズメバチ																										
陸産貝類	3種	ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、 <i>Satsuma</i> 属																											

頁	5-7-31		
位置	表 5-7. 43		
準備書記載事項	影響要因		予測項目
	工事の実施	土地の改変	重要な動物（哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫類・クモ類、底生動物）の生息環境への影響
	存在及び供用	施設の存在	重要な動物（哺乳類、鳥類）の移動経路の阻害等の影響
重要な動物（夜行性の鳥類、昆虫類）への施設照明の影響			
評価書記載事項	影響要因		予測項目
	工事の実施	建設機械の稼働	重要な動物（繁殖活動が確認された猛禽類：ミサゴ、ハチクマ）の繁殖環境への影響
		工事用車両等の走行	
		土地の改変	重要な動物（哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫類・クモ類、底生動物）及び注目すべき生息地への直接改変の影響
	存在及び供用	施設の存在	重要な動物（哺乳類、鳥類）の移動経路の阻害等の影響
			重要な動物（夜行性の鳥類、昆虫類）への施設照明の影響
		施設の稼働	重要な動物（繁殖活動が確認された猛禽類：ミサゴ、ハチクマ）の繁殖環境への影響
廃棄物運搬車両等の走行			

頁	5-7-32		
位置	表 5-7. 44		
準備書記載事項	影響要因		予測時期
	工事の実施	土地の改変	造成工事等により改変面積が最大となる時期
	存在及び供用	施設の存在	新たな施設等の供用開始時
評価書記載事項	影響要因		予測時期
	工事の実施	建設機械の稼働	建設機械の稼働による環境影響が最大となる時期
		工事用車両等の走行	工事用車両等の走行による騒音に係る環境影響が最大となる時期
		土地の改変	造成工事等により改変面積が最大となる時期及び土地の改変による環境影響が最大となる時期
	存在及び供用	施設の存在	新たな施設等の供用開始時
		施設の稼働	施設の稼働による環境影響が最大となる時期
廃棄物運搬車両等の走行		廃棄物運搬車両等の走行による環境影響が最大となる時期	

頁	5-7-33		
位置	表 5-7.45 (1)		
準備書記載事項	予測結果	工事の実施	土地の改変 土地の改変が行われる対象事業実施区域内には本種の主な採餌環境である河川や湖沼等の水域はない。また、本種が繁殖環境として利用する樹林の改変も本事業では行わないことから、土地の改変による本種への影響はないと予測される。
評価書記載事項	予測結果	工事の実施	建設機械の稼働 建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により、本種の繁殖環境が影響を受けるおそれがある。しかし、環境保全措置を講じた騒音・振動の予測結果より、建設機械が稼働する対象事業実施区域から約 200m の距離における騒音寄与レベルは 70dB 程度（地形を考慮しない予測結果）、振動寄与レベルは 30dB 程度とされている。また、対象事業実施区域から本種の最寄りの繁殖地までの距離は約 1km とさらに離れており、繁殖地への寄与レベルは騒音及び振動ともに 0dB と推定される。以上のことから建設機械の稼働による影響は極めて小さいと予測される。
			工事用車両等の走行 工事用車両等の走行に伴い発生する騒音・振動により、本種の繁殖環境が影響を受けるおそれがある。ただし、騒音・振動の予測結果より、本種の営巣地付近の走行ルート of 道路端における予測騒音レベルは 61dB、予測振動レベルは 49dB（感覚閾値未満）であり環境保全目標を満足していた。また、工事用車両等の走行ルートと本種の最寄りの繁殖地までの距離は約 200m であり、繁殖地への騒音寄与レベルは 4dB 程度、振動寄与レベルは 8dB 程度と、繁殖地付近での騒音・振動レベルは大幅に減衰することから、工事用車両等の走行による影響は極めて小さいと予測される。
			土地の改変（直接改変） 【直接改変の影響】 土地の改変が行われる対象事業実施区域内には本種の主な採餌環境である河川や湖沼等の水域はない。また、本種が繁殖環境として利用する樹林の改変も本事業では行わないことから、土地の改変による本種への影響はないと予測される。

頁	5-7-34		
位置	表 5-7.45 (2)		
準備書記載事項	予測結果	存在及び供用	<p>施設の存在 (移動経路の阻害)</p> <p>【施設の存在による移動（飛翔）経路への影響】 対象事業実施区域上空は、本種の飛翔経路の一部となっており、計画施設の煙突が飛翔経路を阻害するおそれがある。しかし、計画施設の煙突高さは現施設と同程度であり、周辺山地の尾根を越える高さはごくわずかであることから、十分に回避可能と考えられる。以上のことから、施設の存在による本種への影響は極めて小さいと予測される。</p>
評価書記載事項	予測結果	存在及び供用	<p>施設の存在 (移動経路の阻害)</p> <p>【施設の存在による移動（飛翔）経路への影響】 対象事業実施区域上空は、本種の飛翔経路の一部となっており、計画施設の煙突が飛翔経路を阻害するおそれがある。しかし、計画施設の煙突高さは現施設と同程度であり、周辺山地の尾根を越える高さはごくわずかであることから、十分に回避可能と考えられる。以上のことから、施設の存在による本種への影響は極めて小さいと予測される。</p> <p>施設の稼働</p> <p>施設の稼働に伴い発生する騒音・振動により、本種の繁殖環境が影響を受けるおそれがある。しかし、環境保全措置を講じた騒音・振動の予測結果より、稼働する施設から約 200m の距離における騒音寄与レベルは 45dB 程度（地形を考慮しない予測結果）、振動寄与レベルは 20dB 程度とされている。また、稼働する施設から本種の最寄りの繁殖地までの距離は約 1km とさらに離れており、繁殖地への寄与レベルは騒音及び振動ともに 0dB と推定される。以上のことから施設の稼働による影響は極めて小さいと予測される。</p> <p>廃棄物運搬車両等の走行</p> <p>廃棄物運搬車両等の走行に伴い発生する騒音・振動により、本種の繁殖環境が影響を受けるおそれがある。ただし、騒音・振動の予測結果より、本種の営巣地付近の走行ルート_{の道路端}における予測騒音レベルは 54dB、予測振動レベルは 35dB（間隔閾値未満）であり環境保全目標を満足していた。また、廃棄物運搬車両等の走行ルートと本種の最寄りの繁殖地までの距離は約 200m であり、繁殖地への寄与レベルは騒音及び振動ともに 0dB と伝搬しないため、廃棄物運搬車両等の走行による影響は極めて小さいと予測される。</p>

頁	5-7-35		
位置	表 5-7.46 (1)		
準備書記載事項	予測結果	工事の実施	土地の改変 土地の改変が行われる対象事業実施区域において本種は確認されていないことから、土地の改変による影響はないと予測される。
評価書記載事項	予測結果	工事の実施	建設機械の稼働 建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により、本種の繁殖環境が影響を受けるおそれがある。しかし、環境保全措置を講じた騒音・振動の予測結果より、建設機械が稼働する対象事業実施区域から約 200m の距離における騒音寄与レベルは 70dB 程度（地形を考慮しない予測結果）、振動寄与レベルは 30dB 程度とされている。また、対象事業実施区域から本種の繁殖環境と推定された推定営巣地までの距離は約 1.3km とさらに離れており、営巣地への寄与レベルは騒音及び振動ともに 0dB と推定される。以上のことから建設機械の稼働による影響は極めて小さいと予測される。
			工事用車両等の走行 工事用車両等の走行に伴い発生する騒音・振動により、本種の繁殖環境が影響を受けるおそれがある。ただし、騒音・振動の予測結果より、走行ルートの道路端における予測騒音レベルは最も大きい地点で 68dB、予測振動レベルは最も大きい地点で 49dB（感覚閾値未満）であり環境保全目標を満足していた。また、工事用車両等の走行ルートと本種の繁殖環境と推定された推定営巣地までの距離は約 1km であり、推定営巣地付近への寄与レベルは騒音及び振動ともに 0dB と伝搬しないため、工事用車両等の走行による影響は極めて小さいと予測される。
			土地の改変 (直接改変) 【直接改変の影響】 土地の改変が行われる対象事業実施区域において本種は確認されていないことから、土地の改変による影響はないと予測される。

頁	5-7-36			
位置	表 5-7.46 (2)			
準備書記載事項	予測結果	存在及び供用 施設の存在 (移動経路の阻害)	【施設の存在による移動（飛翔）経路への影響】 計画施設が建設される対象事業実施区域を本種が利用する様子は確認されていないことから、施設の存在による影響はないと予測される。	
評価書記載事項	予測結果	存在及び供用	施設の存在 (移動経路の阻害)	【施設の存在による移動（飛翔）経路への影響】 計画施設が建設される対象事業実施区域を本種が利用する様子は確認されていないことから、施設の存在による影響はないと予測される。
			施設の稼働	施設の稼働に伴い発生する騒音・振動により、本種の繁殖環境が影響を受けるおそれがある。しかし、環境保全措置を講じた騒音・振動の予測結果より、稼働する施設から約 200m の距離における騒音寄与レベルは 45dB 程度（地形を考慮しない予測結果）、振動寄与レベルは 20dB 程度とされている。また、稼働する施設から本種の繁殖環境と推定された推定営巣地までの距離は約 1.3km とさらに離れており、営巣地への寄与レベルは騒音及び振動ともに 0dB と推定される。以上のことから施設の稼働による影響は極めて小さいと予測される。
			廃棄物運搬車両等の走行	廃棄物運搬車両等の走行に伴い発生する騒音・振動により、本種の繁殖環境が影響を受けるおそれがある。ただし、騒音・振動の予測結果より、走行ルートの道路端における予測騒音レベルは予測値が最大の地点で 67dB、予測振動レベルは予測値が最大の地点で 43dB（間隔閾値未満）であり環境保全目標を満足していた。また、廃棄物運搬車両等の走行ルートと本種の繁殖環境と推定された推定営巣地までの距離は約 1km であり、推定営巣地付近への寄与レベルは騒音及び振動ともに 0dB と伝搬しないため、廃棄物運搬車両等の走行による影響は極めて小さいと予測される。

頁	5-7-39		
位置	表 5-7.53		
準備書記載事項	予測結果	工事の実施 土地の改変	土地の改変が行われる対象事業実施区域において本種は確認されていないことから、土地の改変による影響はないと予測される。
		存在及び供用 施設の存在	本事業において本種の生息環境条件の変化は生じないことから、施設の存在による影響はないと予測される。
評価書記載事項	予測結果	工事の実施 土地の改変 (<u>直接改変</u>) (<u>濁水</u>)	<u>【直接改変の影響】</u> 土地の改変が行われる対象事業実施区域において本種は確認されていないことから、土地の改変による影響はないと予測される。 <u>【濁水の影響】</u> <u>本種の確認位置は、雨水排水地点よりも上流に位置するため、土地の改変により発生した濁水は本種の生息流域に流入しない。以上のことから土地の改変に伴う影響はないと予測される。</u>
		存在及び供用 施設の存在	本事業において本種の生息環境条件の変化は生じないことから、施設の存在による影響はないと予測される。

頁	5-13-17					
位置	表 5-13.30					
準備書記載事項	発生要因		温室効果ガス (tCO ₂ /年)			計画施設
			既存施設			
			里庄清掃工場	井原クリーンセンター	倉敷西部清掃施設組合清掃工場	
	排出量	廃棄物運搬車両の走行	411	318	56	1,449
		ごみの焼却	9,432	18,177	1,167 ^{注)}	23,384
		機械等の稼働(電気使用)	1,998	1,132		3,426
		機械等の稼働(燃料使用)	135	70		89
		小計		11,976	19,697	1,223
	合計		32,896			28,348
	削減量	発電	0	0	0	7,835
	収支 (増加-削減)		32,896			20,513
評価書記載事項	発生要因		温室効果ガス (tCO ₂ /年)			計画施設
			既存施設			
			里庄清掃工場	井原クリーンセンター	倉敷西部清掃施設組合清掃工場	
	排出量	廃棄物運搬車両の走行	411	318	56	1,449
		ごみの焼却	18,177	9,432	1,167 ^{注)}	23,384
		機械等の稼働(電気使用)	1,998	1,132		3,426
		機械等の稼働(燃料使用)	135	70		89
		小計		20,721	10,952	1,223
	合計		32,896			28,348
	削減量	発電	0	0	0	7,835
	収支 (増加-削減)		32,896			20,513

「第6章 環境保全措置」

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
6-15	表 6-2.7	種類:地域の植生に配慮した植栽種の選定 内容:事業計画上実施することとしている敷地境界の緑化には、地域の植生に配慮した植栽種を選定する。	種類:地域の植生に配慮した植栽種の選定及び適切な維持管理の実施 内容:事業計画上実施することとしている敷地境界の緑化には、地域の植生に配慮した植栽種を選定し、植栽後は適切な維持管理を実施する。 <u>植栽種は、必要に応じて、植生の専門家による指導のもと決定する。</u>	準備書に対する知事意見(2 各論評価(2)生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全(イ植物)に対応して、予測結果を踏まえて検討した環境保全措置として、植栽の維持管理及び植栽種の選定方針を記載した。
6-16	表 6-2.8	同上	同上	同上
6-17	表 6-2.9	同上	同上	同上